

カイゼン君のまとめ

Point

トヨタ生産方式の2本柱は、
ジャスト・イン・タイムと自動化

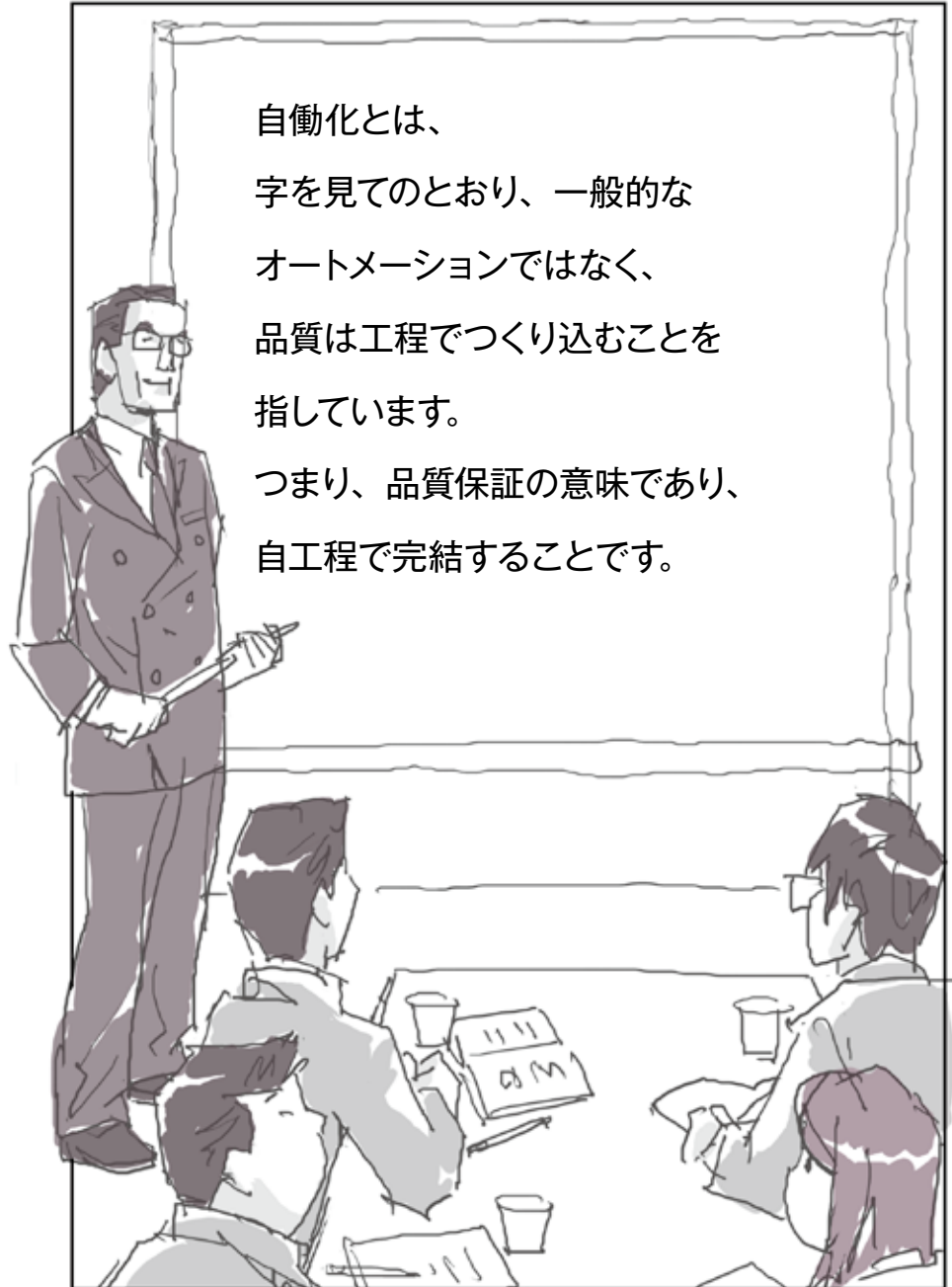


- トヨタ生産方式を支える2本柱は、ジャスト・イン・タイムとにんべんのついた自動化です。
- ジャスト・イン・タイムは、トヨタの社祖・豊田佐吉氏の長男で、トヨタ自動車の創業者である豊田喜一郎社長が発案した考え方です。
- 自動化は、豊田佐吉氏が発明した自動織機に組み込まれた発想やアイデアから生まれたものです。糸が切れたり、なくなったりした場合、ただちに機械が止まり、不良品の生産を防止する仕組みです。

●自動化の方策・やり方

基本原則	ねらい	方策	やり方	道具・手段
1. 品質は工程でつくり込む ↓ 100%良品づくり	良品のみをつくる	異常で止まる 異常がわかる	ライン内での自動チェック装置で止める 異常で人が止める(もう1つの自動化) 異常をランプ、音などで表示する (目で見える管理)	自動停止装置 ストップボタン 定位置停止 生産管理板 多工程持ち ポカヨケ
2. 省人(少人) ↓ 工数低減	監視人をなくす	人の仕事と機械の仕事を分離する	機械が仕事をしている間、人は次の工程に行つて別の仕事をする	

用語解説
 生産管理板：生産の状況が計画とどのような差異があるかを一目でわかるようにした方法
 多工程持ち：同一の仕事において一人の作業者が同種の機械を何台も持つのが「多台持ち」、それに対して「多工程持ち」は流れ順に多くの工程を持つ
 ポカヨケ：うっかり失敗（ポカ）を防止するための改善



自動化とは、
字を見てのとおり、一般的なオートメーションではなく、品質は工程でつくり込むことを指しています。
つまり、品質保証の意味であり、自工程で完結することです。

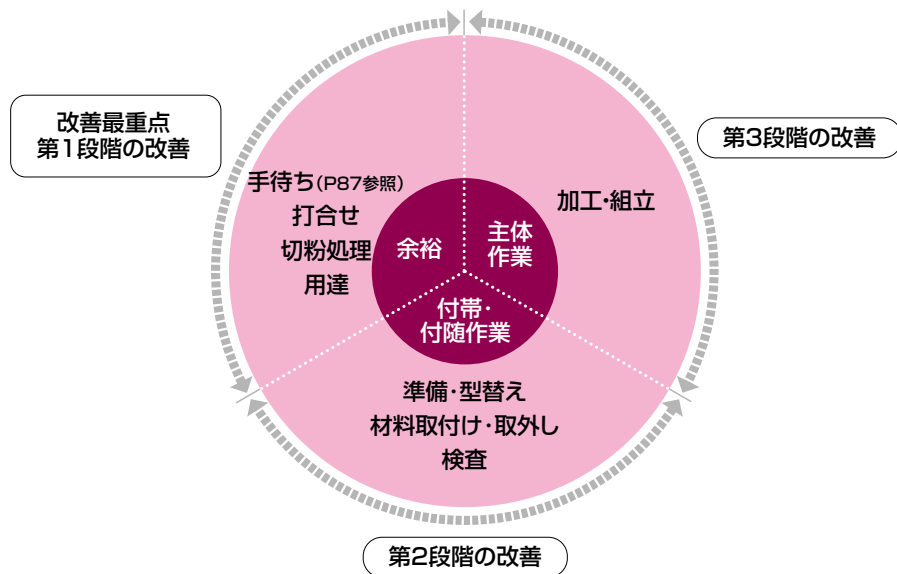
カイゼン君のまとめ

Point ムダを排除すれば
“改善”が見えてくる



- いかにムダのない効率的なものづくりを行うかが、トヨタ生産方式の思想的な原点です。
- 私たちが仕事をするときに、結果として多くのムダを発生させていることが多いのです。これらムダを排除しようと改善しなければ、厳しいものづくりの競争に勝ち残っていくことはできません。
- 戦後、欧米の大手自動車メーカーとの厳しい競争を強いられる中で、トヨタが生き残っていくにはどうしたらよいか、徹底的に考え抜きました。その結果、考え出されたのが、とことんムダを排除して効率的なものづくりを目指す日本的な生産方式でした。

●稼働分析結果



02 ムダの徹底排除が、トヨタ生産方式の思想の原点



03

原価低減こそ利益の源泉である

